

■ 今月のメッセージ(2010年1月)

日本銀行富山事務所長

水上 誠一

明けましておめでとうございます。本年も日本銀行富山事務所を宜しく申し上げます。

昨年は、日本経済・富山県経済にとって、大変厳しい年でした。今年はどうなるでしょうか。その昔「くたばれGNP」といった言葉がはやりましたが、当時（1960年代末から70年代）は、GNP拡大を急ぐあまり環境破壊が進んだ時期でした。いまや、GDPの拡大を国民こぞって願い、しかも、その成長の柱の一つが「環境」ということで、時代の変化を感じます。

ここでのポイントは、かつてのGNPが大企業中心の驀進というイメージだったのに対し、現在のGDPはその名の通り、その成長は国内に居住するすべての人の肩に掛かっていると言えます。金融当局は緩和的環境を維持し、財政当局は効率的な資源配分で新規事業と雇用を創出し、企業は世界に勝てる独創性を伸ばして雇用を維持し、そして、家計も賢い消費生活が求められます（無駄な買い物は不要だが、これぞと思うものにはお金を使う。子ども手当はちゃんと子供のために使い切る。等々）。正直、誰彼を批判している場合ではなく、国民一人一人が自分のポジションで地道かつ最大限の努力をして初めて、景気の「気」が日本に満ちてくるのではないのでしょうか（ところで、日本には将来がないと悲観している学生・生徒の皆さん、将来を決めるのはあなた方であり、今しっかり勉強することが日本を救う道だということを付言しておきます！）。

さて、昨年末、富山商工会議所が行った景気予測に関するアンケートによると、今年の国内景気の見通しは、「現状が続く」が56.7%、次いで「今年より悪化する」が23.3%、と、昨年同様厳しい状況が続くとの見方が8割を占めたということです。一見お先真っ暗のように感じますが、厳しい状況でこそ「悲観的に考え楽天的に行動する」ことが大切であり、その意味で、現状を厳しく評価しておられることは大事なことと思います。そのうえで、先月当欄で話題にしました、企業間を「つなぐ」努力や「オープン・イノベーション」（自社の技術を公開し、他社の技術と有機的に結合させて、価値を創造すること）への積極的な対応などを通じて、次のステップへ「楽天的に」かつ「果敢に」挑戦して成果を挙げていただきたいと願っております。また、こうした地道な努力に安心して取り組めるよう、金融・財政双方の支援策が大変重要であることは言うまでもないことです。

本年が、皆様にとって、それぞれの新たなチャレンジの年となり、その総和の力で日本経済が浮揚することを祈念しております。